

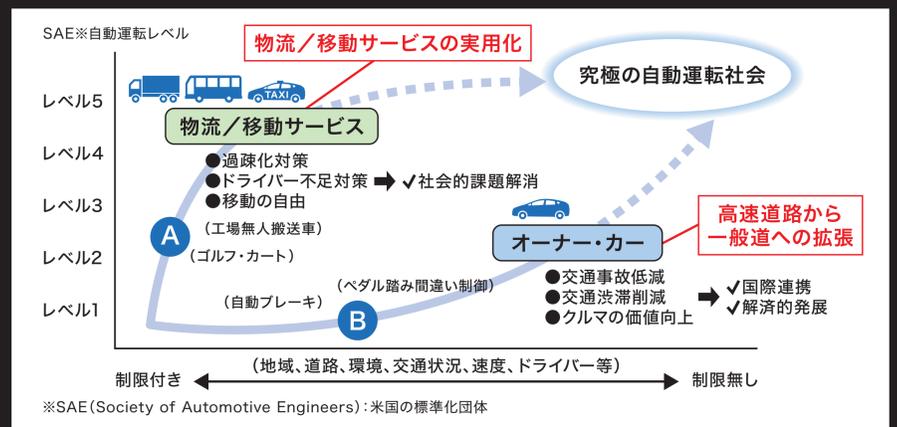
# 東京オリンピック・パラリンピック競技大会に合わせた技術披露をはじめ、自動運転の実現に向けた技術の確立を目指します。

## SIP第2期 自動運転(システムとサービスの拡張)(2018-2022年)

### Vision

#### 概要

交通事故や交通渋滞を減らし、過疎地域に交通手段を提供、物流業界におけるドライバー不足等の社会的課題の解決に貢献します。最終的に社会の皆様へ安全で確実な移動を保証し、高速道路から一般道への自動運転を拡大、自動運転ベースのロジスティクスとモビリティサービスの実現を目指します。



#### 目標

- 自家用車:運転支援技術の一般道における高度化(レベル2以上)。2025年をめどに高速道路におけるレベル4の自動運転。
- 移動サービス:2020年までに限定地域でレベル4自動運転サービス。
- 物流サービス:2025年以降に高速道路でトラックのレベル4自動運転。
- 2023年までに上記項目を達成するために不可欠な協調領域の基盤技術を確立し、様々な民間事業者や地方公共団体とのFOT(実証実験)の有効性を検証し、実用化の実例を複数実践して準備を完了。

#### 出口戦略

実用化に必要なステークホルダー参加型の研究開発により、出口でのスムーズな事業化を目指す。具体的には、民間事業者からの投資と事業計画を次のように促進します。

- (1) 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の活用
- (2) 事業者・地方自治体関係者の事業企画に基づいた実証実験

#### 社会的経済インパクト

地域社会のニーズや用途に適したより高度なモビリティにより

- (1) 交通事故および渋滞緩和
- (2) 地域交通の確保
- (3) 人出不足の緩和
- (4) 産業競争力の強化
- (5) 新産業の創出 等の他、

自動運転技術を用いた物流サービスや他の交通機関と組み合わせた交通サービス等が期待されています。

#### 社会実装に向けた研究内容

##### [I] 自動運転システムの開発・検証(実証実験)

- ①信号情報提供技術の開発
- ②路車連携・合流支援等の技術開発
- ③車両プローブ情報の収集と活用のための技術開発
- ④次世代型公共交通システムの開発
- ⑤移動サービス実用化に向けた環境整備等

##### [II] 自動運転実用化に向けた基盤技術開発

- ①仮想空間での安全性評価環境の構築
- ②効率的なデータ収集・分析・配信技術の開発等

##### [III] 自動運転に対する社会的受容性の醸成

- ①社会受容性イベントの企画・開催
- ②自動運転のインパクトの明確化
- ③交通制約者の支援に関する研究等

##### [IV] 国際連携の強化

- ①国際会議での発信
- ②海外研究機関との共同研究等

